



開催日時 11 月 7 日 ( 木 ) 会場 岐阜県グリーンスタジアム 天候 曇り

【全試合結果】

【男子】

第1試合 10:30	中国	4	$\begin{pmatrix} 2 - 3 \\ 2 - 2 \end{pmatrix}$	5	マレーシア
第2試合 12:30	インド	4	$\begin{pmatrix} 2 - 2 \\ 2 - 3 \end{pmatrix}$	5	パキスタン
第3試合 14:30	日本	4	$\begin{pmatrix} 1 - 0 \\ 3 - 0 \end{pmatrix}$	0	オマーン

【女子】

第4試合 16:30	中国	0	$\begin{pmatrix} 0 - 0 \\ 0 - 1 \end{pmatrix}$	1	マレーシア
第5試合 18:30	インド	1	$\begin{pmatrix} 1 - 0 \\ 0 - 2 \end{pmatrix}$	2	日本

**【各試合の結果・詳細】**

**第1試合**

中国 4  $\begin{pmatrix} 2 & -3 \\ 2 & -2 \end{pmatrix}$  5 マレーシア

勝点 6 勝点 6  
2 勝 0 分 2 敗 2 勝 0 分 2 敗

<得点>

中国 : 6分 #15 DU TALAKE、23分 #11 LI ZECHEG  
64分 #5 WANG ZIPENG  
マレーシア : 4分 #10 Faizal Saari、11分 #17 Muhammad Razie Abdul Rahim  
26分 #13 Ismail Bin Abu、48分 #7 Amirullah Bin Zainol

<戦評>

中国のセンターパスにより前半戦が開始された。4分、マレーシアはPCを取得。#10Faizal Saariがゴールど真ん中ヘドレッジシュートを放ち、先制点を挙げる。対する中国も6分、PCを取得。#15DU TALAKEが強烈なドレッジシュートで得点し、同点とする。マレーシアは11分、再びPCを取得。#17Muhammad Razie Abdul Rahimが放ったドレッジシュートは、GKのグローブをはじき、得点。リードする。対する中国は23分、#21SUN LONGがゴール前の混戦から、#11LI ZECHENGへパスが渡り、それをリバースシュートで押し込み、再び同点とする。追加点がほしい両チームは、一歩も譲らない攻防を繰り返す。26分、マレーシアは、左サイドから#13Ismail Bin Abuがスピードのあるドリブルでサークル内へ持ち込み、角度のない所からリバースシュートを決め、3点目を挙げる。追い付きたい中国は、33分、35分にPCを取得するも、マレーシアのDFに阻まれ、得点することは出来ない。2-3で前半戦を折り返した。  
後半に入り、追い付きたい中国は43分、#17WANG BOWENが左サイド23m付近からボールを打ち込むと、ゴール前で#11LI ZECHENGがDFの隙を突き華麗なタッチシュートを決め、またも試合を振り出しに戻す。対するマレーシアは47分、PCを取得。#17Muhammad Razie Abdul Rahimがゴール左下ヘドレッジシュートを決め、3-4とする。その直後の48分、マレーシア#13Ismail Bin Abuが左サイドからシュートを放つ。一度はGKに止められるも、#7Amirullah Bin Zainolがこぼれ球に反応し、それを押し込み3-5と点差を広げる。その後、中国の攻撃は激しさを増し、64分PCを取得。#5WANG ZIPENGがドレッジシュートを決め、4-5とする。中国は67分、再びPCを取得し、チャンスを得るが、マレーシアの堅い守備を破ることが出来ず、得点にはならない。試合はそのまま終了し、4-5でマレーシアが勝利した。

テクニカルオフィサー	Koichi Ueda(JPN)	アンパイア	Ripudarman Sharma(IND)
ジャッジ	Asif Khan(PAK)		Thani Saheem(OMN)
	Rakesh Bahlia(IND)		

**第2試合**

インド 4  $\begin{pmatrix} 2 & -2 \\ 2 & -3 \end{pmatrix}$  5 パキスタン

勝点 3 勝点 12  
1 勝 0 分 3 敗 4 勝 0 分 0 敗

<得点>

インド : 24分 #4 GURJINDER SINGH、30分 #30 AMIT ROHIDAS  
40分 #7 MANPREET SHIGH、49分 #18 MALAK SINGH  
パキスタン : 2分 #9 ABDUL HASEEM KHAN、35分 #19 MUHAMMAD IMRAN  
36分 44分 #10 MUHAMMAD RIZWAN、53分 #4 MUHAMMAD RIZWAN JUNIOR

<戦評>

インドのセンターパスにより前半戦が開始された。開始早々2分、右サイド23m付近から、パキスタン#8SHAFQAT RASOOLがゴール前へボールを打ち込むと、ノーマークの#9ABDUL HASEEM KHANがリバースでタッチシュートを決め、先制点を挙げる。パキスタンに勢いがあつたが、徐々にインドペースの試合となる。24分、インドがPCを取得。#4GURJINDER SINGHがゴール左上ヘドレッジシュートを決め、1-1とする。続く29分、パキスタンがPCを取得するが、GKに阻まれ、得点することが出来ない。インドは30分、PCから#30AMIT ROHIDASがドレッジシュートを放つと、DFのスティックをはじき、得点。2-1とインドがリードする。追い付きたいパキスタンは35分、PCからチャンスを得る。ドレッジシュートを放つも、GKがファインセーブを見せると、再びPCとなる。ラストチャンスで#19MUHAMMAD IMRANがゴール右上へ豪快なドレッジシュートを決めパキスタンが、同点に追い付き、2-2で前半戦を折り返した。  
後半開始直後の36分、パキスタン#9ABDUL HASEEM KHANは右からスピードのあるドリブルで回り込み、ゴール前へパス。#10MUHAMMAD RIZWANがリバースでタッチし得点。2-3とし、リードする。インドは、40分#11MANDEEP SINGHが23m付近でパスカットすると、#7MANPREET SINGHへパス。右サイドからサークルに持ち込みブツシュート。3-3とする。パキスタンは44分#9 ABDUL HASEEM KHANからのパスを受けた#10MUHAMMAD RIZWANが左サイドからサークルイン。DFに囲まれるが、ゴール右上へ豪快なリバースシュートを決め、3-4とする。対するインドは49分、右サイド23m付近から、サークル内へボールを持ち込むと、#18MALAK SINGHがGKの前で華麗なタッチシュートを決め、再び同点とする。試合は激しい点の取り合いとなる。53分、パキスタンは#5FAREET AHMEDがサークルトップの#4MUHAMMAD RIZWAN JUNIORへパス。ドリブルで持ち込むと、そのままリバースシュートで得点。4-5とパキスタンがリードする。その後インドは68分、69分、70分と立て続けにPCを取得。チャンスを作るも、パキスタンの必死のDFにより、得点には至らない。そのまま試合は終了し、4-5でパキスタンが勝利した。

テクニカルオフィサー	Alfred Chan(HKG)	アンパイア	Jang Jung Min(KOR)
ジャッジ	K.Ananthavale(MAS)		Yuji Hosakawa(JPN)
	Liu Chengjun(CHN)		



第5試合

インド 1  $\begin{pmatrix} 1 & -0 \\ 0 & -2 \end{pmatrix}$  2 日本

勝点 6  
2 勝 0 分 1 敗

勝点 9  
3 勝 0 分 0 敗

<得点>

インド : 33分 #8 CHANCHAC DEVI THOKCHOM  
日本 : 58分 #22 柴田、68分 #3 坂井

<戦評>

インドのセンターパスにより前半戦が開始された。日本は細かいパスを繋ぎ、右サイドから攻撃を仕掛ける。5分、相手陣内へ攻め込むと、ダイレクトパスでサークルイン。しかし、ボールはゴール前を通過し、得点には繋がらない。インドは、個人技を活かしドリブルで攻め込む。8分、左から打ち込まれたボールを#16VANDANA KATARIYAがゴール右サイドでレシーブ。角度のない所からリバースでシュートするが、GKに止められる。試合は日本優位に進む。日本は10分、16分とPCを取得。チャンスを作るも、ゴールの枠を捉えることが出来ず、得点することは出来ない。33分、右から回り込んだインドはPCを取得。#28RANIが放ったヒットシュートは、GK#1大家が止めるが、日本DFがクリアしようとしたところを#8CHANCHAN DEVI THOKCHOMが押し込み、先制点を挙げる。そのまま1-0で前半戦を折り返した。

後半に入り、追い付きたい日本は、猛攻を仕掛ける。39分、#9三橋が右から回り込み、ゴール前の#22柴田へパス。リバースでタッチするも、GKに止められる。さらに50分、#9三橋が右からのセンターリングに#15永井友理がスライディングでタッチシュートを狙うが、得点することは出来ない。インドは、粘り強い守備から速攻を仕掛ける。51分、ドリブルでサークル内へ持ち込むと、左サイドからリバースシュートを放つ。しかし、ゴールの枠を捉えることが出来ず、追加点を挙げられない。追い付きたい日本は、激しい攻撃を仕掛ける。58分、#5太田がゴール前へ打ち込むと、#22柴田が倒れ込みながらもタッチシュート。同点に追い付く。さらに68分、PCを取得した日本は、#3坂井がドラッグシュートを決め、2点目を挙げる。1-2で試合は終了し、日本が勝利した。

この結果、インドが予選リーグ2位、日本が予選リーグ1位となった。

テクニカルオフィサー	etsuda Chianthianthong(THA)	アンパイア	Tang Li(CHN)
ジャッジ	Yao Hongjun(CHN) Rakesh Bahtia(IND)		Nurhafizah(MAS)

明日の組み合わせ【男子】

第1試合 14:30	マレーシア	vs	インド
第2試合 16:30	中国	vs	オマーン
第3試合 18:30	パキスタン	vs	日本

女子予選リーグ最終順位

1	日本
2	インド
3	マレーシア
4	中国